

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570101693
法人名	財団法人 弘潤会
事業所名	グループホームほのぼの小松
所在地	宮崎県宮崎市大字小松1173-5 (電話) 0985-47-6555

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 6 月 22 日

## 【情報提供票より】(21年 6月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8.8 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

## (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野崎病院 野崎東病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市内の閑静な住宅街と、病院や介護老人保健施設、コンビニが近くにあり、小規模多機能施設が隣接する。地域自治体の理解はまだ十分ではないが積極的に地域に働きかけを行っており、地区の祭りへの参加や保育園児の訪問など地域に密着した取り組みがなされている。また、理念についてはホームの理念はもとより職員理念として具体的な行動目標を挙げ利用者が家庭的な暮らしの中で自分らしい生活が過ごせるよう支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善課題として取り上げられた施設については、外出傾向にある方の行動パターンなどを把握することにより日中は施設することなく対応されている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がそれぞれ自己評価に取り組み管理者を中心に評価をまとめている。今回の自己評価では取組んでいきたい項目への記載はないが常に先を見据えた日々のケアに取組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員、介護相談員、地域包括支援センター、利用者家族などの参加のもと定期的に開催され事業報告やホームでの生活状況など意見交換が行われサービスの向上に活かされている。また、地域の駐在さんや近くの菓子屋さんなどにも参加依頼をしており地域とより密着した意見交換ができるよう取組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置するほか、家族の来訪時や運営会議家族会の中で意見を引き出すよう取組んでいる。苦情はないが聴集した意見等は全職員で話し合い対応している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りや公民館で開催される行事に参加したり近くの保育園のとの交流も積極的に行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本に、利用者の立場を尊重し住み慣れた地域でその人らしい暮らしができるようホーム独自の理念を作りあげ更に具体化している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念に沿った支援ができるように、職員理念として具体的な行動目標を挙げ利用者が家庭的な暮らしの中で自分らしい生活が過ごせるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の理解は十分ではないが、地区の公民館で行われている行事や地域の祭りに参加し、地元の人々との交流が図られている。また、ボランティアの受け入れや保育園児とのふれ合いなど地域交流が積極的に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員で話し合い全員で自己評価表を作成している。自己評価では取り組みを期待したい点はないが一步前にをモットーに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、介護相談員、地域包括支援センター、利用者家族などの参加のもと開催され、意見交換が行われている。また、地域の駐在さんや近くの菓子屋さんなどにも参加依頼をしており地域とより密着した意見交換ができるよう取組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの管理者が市役所に出向き事業所の運営などの意見を伺う機会をつくっている。また、行政主催の研修などで意見交換を図るなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に便りで近況報告をしている。また、利用料の支払いは事業所で行うため月1回は家族と話し合う機会があり、ホームでの生活状況など個々に合わせ報告している。預かり金については、領収書で管理され家族へ報告した記録がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の意見箱が利用された記録は無いが、運営推進会議や家族会を活用し家族との意見交換を図り運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は発生していないが、あらかじめ退職予定のある場合はパート職を優先して採用できるようダメージがないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な外部研修受講が可能であり、外部の研修に参加した場合は復命し職員に伝達している。また、個々においても自由に研修会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での研修会が各ホームで開催されるため、その都度同業者との交流する機会があり意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に来訪していただき本人、家族が納得して利用できるようにしている。また、来訪できない方には利用前に職員が訪問し徐々に馴染めるように取組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのかかわりの中で、しんぼう強さや生活の知恵など教えてもらう場面があり共に支えあう関係作りを築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいかどのような暮らしを望んでいるか日々の生活を通じ本人本位に希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で話し合い、利用者の立場に立った介護計画が作成されている。また、家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回定期的に行われ、月1回は利用者の経過についてモニタリングされている。また状況が変化が生じた場合はその都度話し合い、計画の見直しと追加を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ通院や買物など外出の支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医を優先している。また、利用者の状態に変化があった場合は情報提供書を作成し連携を図る体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りが行えるよう方針があり、説明書類等も整備されている。現在数名の方の看取りの希望があり、家族との話し合いも持たれている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の対応時はプライバシーを損ねないように十分配慮されており、個人情報についても十分な配慮のもとに管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して利用者を強制することなく、利用者の心地いい場所を優先し寄り添う支援がなされている。趣味のある方は自由に活動でき、利用者のペースで時間が流れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が重度化し調理は難しいが、楽しみながら一緒に食事をしている。状況に応じて食事形態を工夫し、さりげない介助が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望は聞かれなくなったが、一人ひとりのタイミングに合わせて毎日午後4時から7時の間に入浴を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる限り利用者の能力や特性を活かし支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物に出かけたり定期的にドライブに出かけたり外食を行ったりと、日常的に外出ができるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や居室には鍵をかけずに、日々職員の目配りや気配りによる支援を行っている。また、外出傾向のある方は本人の生活パターンを把握した対応がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災避難訓練は夜間の想定も含め定期的に行っている。また、非常食や医療用品の備蓄もある。職員が常に避難場所を確認するため、ハザードマップを掲示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事担当の職員がおり一人ひとりの嗜好や季節のもの等栄養バランスに配慮した献立作りがなされている。また、栄養バランスについても時々チェックされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の共有空間はサンルームなどゆったりと保たれており、不快な音や光もなく洗剤なども適切に管理され安心して生活できる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやたんす、装飾など本人の持ち物や本人に関連した物が持ち込まれておりその人らしい環境づくりがなされている。		